

中央図書館との共催映像祭

10月26日(日)13時からと決定

去る7月2日、大阪アマチュア映像連盟の合原会長、関事務局長ら数名の役員が大阪市立中央図書館の関本企画情報課長・同小西主査を訪ね、今秋に予定されている“映像祭”につき詳細を打合わせてきました。その要旨は次の通りです。

記

- ・映像祭開始日時：平成9年10月26日(日)12時30分開場、13時上映開始～16時半過ぎ終映
- ・名称：大阪アマチュア映像祭(図書館との共催の線が進むが、後援の場合も有る)
- ・場所：地下鉄西長堀駅すぐ横、大阪市立中央図書館大会議室(定員300名)
- ・役割分担：上映は連盟側が行う。そのため10月初めに図書館へ行きリハーサルをし操作の習熟を行う。作品は録音レベルが一本一本違うのでその確認を行う必要もある。ポスター、舞台吊り看板等の製作をする。
- ・作品選定：8月24日(日)朝から夕方まで1日かけて阿倍野市民学習センターで行う。各クラブより1～4本ずつ持ちより上映作品を選定、直ちにプログラム編成に着手する。

以上の要旨のもと、参加各クラブはそれぞれの候補作品の選定にあたってもらうことになりました。今回はかならずしも新作、過去に公開、未公開に拘わらず作品内容本位で選びたいのですが、各クラブ2本前後では選定に頭を痛めそうです。

OMC映像フェスティバルは

11月9日(日)に予定

先月号で公開映写会の日時を10月19日(日)を予定と発表しましたが、中央図書館との共催映像祭が10月26日と決定しましたので、19日だと間が1週間しかありません。これでは観客動員も難しいので、2週間の間隔をあけて11月9日(日)を予定(会場予約が3ヶ月前の8月にならないと確定しませんので)

しました。逆に2週間早くという線もありますが、3連休の日曜で何かと旅行、行事で観客動員にもマイナス要因がありそうなので後にしました。8月例会までの作品から選定しますので、出品候補作品のご準備をお願いします。

6月例会のレポート

今月の担当は書記を関さん、司会を合原さん、デッキ係りに藤原さんの担当で例会を始めました。以下、関さんのレポートです。

台風8号が近畿に迫っているとの予報。雨風ともそんなに強くはありませんが、定刻になっても出席者はまばら。浜松祭りの互選を控えているのに出品予定者が現われません。「やっぱり台風が影響してるね、今夜は無理かな」と悲観的な声もでした。

本来なら撮影会作品のあとで月例作品を映写するのが普通ですが、とりあえず月例作品から始めることになりました。藤原氏の作品が終ってうしろを見ると、なんと来るべき人の顔ぶれがほとんど揃っているではありませんか。「やれやれ、良かった」

というわけで結果的にはいつも通り盛会でした。

出席者：石垣（ご夫妻）、今井、岩井、江村、岡木、奥、上総、勝、合原、関、田中、中尾、華岡、藤原、前田、森、以上17名（敬称略）

月例作品

藤原純三さん

我が町探訪

13分

OVCの課題コン最優秀作。地元の西区川口から新名所大阪ドームまでの沿道を藤原さん自身がリポーター役を務めながら紹介しています。元は10分の作品ですが撮影協力者中尾さんとのエピソードシーンを最初に加えてあり、その分すこし長くなっています。

石垣禎章さん

矢田寺とあじさいの花

6分20秒

花の超アップを随所におりこみ飽きさせません。各カットの長さも間のとり方も最適。過去矢田寺をテーマにしたものはたくさん見ましたが、それらに比べても遜色のない素晴らしい作品です。ただ金泊の絵びょうぶのカットが花のあいだで孤立していました。建物のシーンの中に入れ替えると良いと思います。

浜松撮影会作品コンテスト公開審査

最優秀賞に前田茂夫氏

異色作の江村作品が第2位

浜松祭り撮影会作品互選（映写順はあみだくじ方式で決定）

9名の参加で8作品。もっとも森さんは写真の記録に専念されていたので実質100%の出品率になり、かつてない快挙です。驚きました。

浜松祭りは、騒然とした昼間の凧合戦と、夜の優雅なご殿屋台の曳ぎ回しという、まったく異質の行事の組合わせ。そんな中で凧揚げとご殿屋台の両方をとりあげた人が多く、そのつなぎに苦心の跡がうかがえます。それでも皆さん実に要領良くまとめられていたのには感心しました。

前田さんはラッパのメロディーをコンピューターで演奏するお得意のBGM。奥さんは4分と短編ながら撮影も編集技術も申し分なく、合原さんはちょっとナレーションの多いのが欠点ですが、持ち前の几帳面さでそつのない仕上り。最も目を引いたのが江村さん。他の人とまったく違う撮り方で心象風にまとめであり素晴らしい作品でした。

1. 有村 博さん	浜松まつり		8分40秒
2. 前田茂夫さん	浜松まつり	動と静	9分15秒
3. 今井羨美さん	浜松まつり		13分30秒
4. 勝 成忠さん	浜松まつり		8分30秒
5. 奥 宏さん	浜松まつり	凧揚げ合戦	4分
6. 関 剛さん	凧と男たち		11分15秒
7. 合原一夫さん	浜松の響き		13分45秒
8. 江村一郎さん	浜松まつり		9分

出席者全員で互選の結果、一位前田さん、二位江村さん、三位（同点2名）奥さん、合原さんに決定しました。

（以上、講評 関氏）

■まだ耳に残るラッパの響き

浜松の凧揚げ合戦は、あの独特のラッパの響きが特色で、今回どの作品もほとんどBGMを最小限に押さえて、現録の音を活かして作ってありました。お陰で最初から最後までラッパと太鼓の音で、上映中聞きっぱなし、家でもその晩はラッパの音が耳に残ってしばし寝つきが悪い思いがしました。

今回、撮影者全員が出品されたことは、それだけ作品としてまとめやすく絵になったということでしょう。確かにナレーションがなくても、現録だけで十分迫力ある画面づくりが可能でした。作品の出来栄えの差は、凧揚げへの導入部の扱いと御殿屋台への場面転換にあったように思いましたが、皆いい作品を作って頂き感謝しています。

（合原 記）

PC7持って尾瀬行

合原 一夫

今年の5月末、妻とその妹を連れて3人で尾瀬へ4泊の旅へ行ってきた。8ミリフィルム時代の数年前、やはり水芭蕉の咲く頃、妻と共に東京の映像仲間と初めて尾瀬へ行ったが、もう一度行ってみたいとの願いを聞き入れての旅であった。体調が心配なので一般のツアー参加は無理で、のんびりゆったり、普通の人の3倍の時間をとって、まず大阪から東京を経て上越線沼田へ降り、バスで戸倉へ行って戸倉温泉で一泊。翌日は鳩待峠から尾瀬ヶ原へ降り、見晴ら

しまで散策、弥四郎小屋へ泊り、3日目は尾瀬林道を経て、尾瀬沼へ出て長蔵小屋へ一泊、4日目は沼山峠へ抜けて檜枝岐經由バスで会津高原へそこから電車で日光へ廻って日光プリンスホテルに一泊といったのんびり旅であった。

今回はリュックを背負い、歩きが主体なので装備も軽い方がよいだろうと、東京秋葉原フカヤ電機からソニーのPC7を17万円で購入し持っていった。カメラが軽いので三脚も小さくてよく、ビデオ関連の機材が軽くてよかったのは幸いであった。画質もまずまずである。ただ慣れていないせいか録画ボタンの操作がやりづらく（真ん中のポッチを押してスライドさせる）モタモタして撮影チャンスを逃したり、スイッチをスライドすると、フォトモードにまでスライドさせるケースが多かったりで、操作性はイマイチ。また露出調整がロック方式なのでなかなか適正露出へピタッというわけにはいかなかった。特に水芭蕉のように白い被写体が暗い水面や腐蝕土の上にあるのをそのままオートで撮ると、あの透き通ったような水芭蕉の白さが露出オーバーで白っぽくなってしまふのが多かった。しかし、慣れてくるとなかなか手軽で重宝なカメラである。録画中赤ランプが点灯しないようセット出来るのも気に入っている。とにかく相手にカメラを意識させないで。撮影できる点でこのカメラは優れていると思った。

さて、尾瀬では水芭蕉の最盛期、ウイークデーなので観光客も少なく、山小屋も比較的すいていた。山小屋はどこでも水洗トイレ、バスルームもステンレス製やらタイル張りやらで立派になっているのには驚いた。浄化槽を5,000万円もかけて作ったそうだ。弥四郎小屋では、各部屋に電気ゴタツがあり、そのためのコンセントは1つあったが、充電用にすると、ゴタツを使うのをやめなければならず、テーブルタップを持っていくべきだと思った。しかも夜9時には部屋の電気は消え廊下だけの小さな灯りとなってしまふ。長蔵小屋はコンセントあり、一晩中電気が通じた。自動販売機も公衆電話も郵便ポストもあり、随分進んでいるなど思った。ちなみに長蔵小屋には沼山超えで毎日郵便屋さんがやってくるそうだ。

尾瀬ヶ原から尾瀬沼へ行くには、4.5キロのゆったりした林道を登っていく必要があり、妻は5分歩いては10分の休憩で、まさに1日がかかりであった。もうここへは来れないだろうと息切れしながらも、尾瀬の感動を再び満喫したようであった。

7月例会のお知らせ

7月例会は26日（第4土曜日）午後6時より、阿倍野市民学習センター（あべのベルタ3階）で開催します。暑い盛りですが、会場は冷房が効いています。月1回の楽しい例会にお出かけください。公開映写会が近づいています。出品予定作品未完成でもかまいませんからお持ち下さい。皆さんの意見を聞いて、よりよい作品に仕上げましょう。また一般作品もご持参下さい。作品がないと例会が成り立ちません。では例会ご来場をお待ちします。